

湘南国際村活性化検討委員会（第6回）議事録

- 1 日 時 平成30年8月31日（金） 10:00～12:00
- 2 場 所 湘南国際村センター 1階 ルミエール
- 3 出席者 委員10名
- 4 発言要旨

開会前に、今回から委員として参加する湘南国際村自治会の会長である大阿久委員から自己紹介があり、続いて他の委員が自己紹介した。

委 員 長： ただ今から「湘南国際村活性化検討委員会」第6回を開催する。

議題1「これまでの議論について」

委 員 長： 資料1のうち、前回の議事録に当たる部分について、内容に問題なしとしてよいか。

（「異議なし」の声）

それでは、これをもって確定版とする。

また、全体を通じて問題なしとしてよいか。

（「異議なし」の声）

それでは、これをもって確定版とする。

資料2については、如何か。

委 員 長： 2点ほど。今回、住民の方々にアンケートを実施した。その結果を見て、住民の方々がどのような問題認識を持っているか、整理が必要だと考えている。

生活環境の向上、交流人口の増加という二本柱には私も賛成だが、その前に課題をどのように整理するのか。その課題を踏まえて、二本柱に対してどういう方向性で取り組むかという検討をする必要がある。今後、住民の皆様方のご意見を踏まえた資料の充実が必要だろうと考えているが、その点は如何か。

2点目は、今後のスケジュールにおいて、これから新たな方向性をとりまとめていくこととなっている。基本計画の骨子そのものが、この資料2に該当するという認識を持っている。ビジョン、コンセプト、強化する方向性がメインで、事例として、こういう施策例もありますというまとめ方をしていくのだろうと想像している。そうした認識でよいか。資料2の位置づけを確認したい。

事 務 局： 1点目の課題について。これまでの検討委員会でも、「住民の皆様の課題認識と我々の課題認識がずれていたら本末転倒になってしまうので、しっかり突き合わせていかなければならない」というご意見を再三いただいていた。今回のアンケートは先週末が締め切りで、大急ぎで集計したところ。資料3の集計結果をもって終了ということではなく、これをいかに分析して、今後につなげていくかが重要。資料2では、スペースの都合上、13個の課題の項目名の

みが記載されているが、この背後には何十ものご意見が連なっている。これまでのご意見に、アンケート結果も加えて、今一度整理したい。

2点目の資料2の扱いについて。「ビジョン、コンセプト」の部分が基本計画に該当すると整理しており、今までご提案いただいた具体案を集約したものが、基本計画に結びついていくという考え方だと思う。現在の柱立てが今の基本計画にどうつながるか、今の言葉が正しいのかについては、これからご議論いただくところであり、まだ決まっていない。

委員長：併せて、例えばアンケート結果をご覧いただいた上で、資料2についてご意見を反映していくこともお願いしたい。

議題2「アンケートの結果について」

委員長：委員の皆様から「住民の方々の問題意識とずれ違いがあってはいけない」という強いご意見をいただいていたが、そこが実現できたのだと思う。今回のアンケートから感じるもの、気づきなど、ご意見をいただければ。

委員：まさに思ったとおりの結果だった。「やれるところから手をつける」ことが非常に重要。今回の結果を見ると、和食店で食事をする人が多いのに、湘南国際村センター内の「桂」は駄目だ、という結論。以前お話ししたとおり、設備はよいが料理は駄目だと思う。そういう「やれること」を改善すべき。プールというよい施設があるなど、湘南国際村センターは住民にとって共通の価値。しかし、その価値の創造ができていないから生活がしにくい、となる。せっかくこれだけの設備があるのだから、住民の方々の意見を取り入れていくべき。センターを視察した際、スポーツクラブを作ればよい、という話をした。年齢層が高くなってくると、これがあるとないとでは、生活の仕方が違う。三崎の下町にスポーツクラブを作り、接骨院を併設しているが、ほとんどが60代、70代の方。そうした設備が充実してくれば、要望にもあるとおり、非常に過ごしやすい環境になると思う。何回も会議をして、意見を言い、資料にはなっているが、できることから具体的に取組んだ方がよいのでは。

それから、湘南国際村に住んでいると、マンションのように管理費がかかるのか。

委員：運営管理組合があり、そこに納めている。下水道は自主管理しているが、それはどこに払うかという問題なので、あまり関係がない。

委員：管理費は、どの程度か。

委員：年3万程度かと思うが、負担感はそれほどない。周辺の施設の方が、多く払っているのでは。緑地帯も同じように一緒に管理しているので、一体感はある。

委員：バス便を増やしてほしいという意見があるが、実際にバスを利用している人が少ない。であれば、センターにハイヤーのような会員制の住民向けサービスを盛り込んで、管理費で捻出できれば、好きな場所に行けてよい。三崎も同じ

ような状態。バスが混むので車で食事に行くと、お酒が飲めない。電話すれば行きたい場所に連れていってくれるというサービスをこの街独特のものとして充実させ、廉価で提供すればよい。センターにできることは多くあると思う。

委員長： 今のご意見は、アンケートの結果を見ると、今すぐできるものもいくつかある、ということ。こうした点については、この委員会とは別に、県として、あるいは横須賀市、葉山町としてこれから、あるいは並行して検討するという話もあったかと思う。この委員会の目的は、むしろ大きな枠組みやこれからの方向性、あるいはそれを規制する法規制などを検討するとしていたと思うが、事務局としては如何か。

事務局： 我々も同じ考え。センターにできることとしてご意見をいただいた。センターを運営する湘南国際村協会に出資している立場もあるので、県と村協会、市町で別線で協議を進めていきたいと考えている。また、住環境については、横須賀市、葉山町に関係する部分があるので、県も一緒に加わりながら協議したい。検討委員会では村全体の中長期の部分を中心にご議論いただきたい。

委員長： ただ、ぜひお願いしたいのは、「アンケートをとっておしまい」ではなく、ここで分かった課題に対して具体的にどう取り組んでいくかであり、今のご意見は今後の取組なので、そこも取り入れながら議論してもらえればと思う。

事務局： アンケートにも、委員のご意見にも、様々なヒントがあると思う。それをしっかり受け止めていきたいので、ご意見をいただけるのはありがたい。

委員： 私もアンケートを見て、センターそのものの機能を充実しないと、「住んでよし」とはならず、この委員会でどのようにまとめていくか、がポイントだと感じた。アンケートについては、こういう課題がある、としっかり整理をする。センターにおいては「こういう機能を充実する必要がある」というところまでは、この委員会で議論する。それ以降の具体的な施策については、別途委員会なりワーキングなりで議論する。そうしないと、このアンケートがなんだったのか、となる。この委員会も住環境について何も言及しない、というのも違うと思う。基本的に、住環境に対して「こういうふうにしていく方向では」ということは、言わなければならない。そこを整理する必要がある。

委員： この資料2で「中長期的」と「短期的」とあるが、このくくりではなく、すぐにできること、もある。アンケートの結果、一年待つ必要はなく、短期計画はすぐに取り組んだ方がよいと思う。

事務局： 資料では便宜的に分けているが、「明日にでもできることは、すぐやる」ということで取り組む必要があると考えている。

委員： 私はラジオ番組を持っており、そこで湘南国際村の話をしたところ、リスナーから「初めて知った」という声があった。見に行ったら、よい所だと言っている。今、空いている場所はあまりないと思うが、住民は現状維持を望んでいる。この地域は素晴らしい街並みもできているし、センターもある。最初に村を作った時のコンセプトに立ち返って、それが実行できているかどうかから作り込んだ方がよいのでは。素晴らしいアイデアが出てきているが、もう少し

住む人を増やすというのは、それほど難しいことではないと思う。県、市町で予算を組んで告知をすれば、全て埋まると思う。その中から、村の付加価値を高めていくという方が、現実性が高いと思う。空いてしまってから埋めようとすると大変。桂も稼働率を上げないといけないし、住民と外から来る方たちが食事を楽しめるような形に作り上げていかないと。計画全体を整合させるためにも、できることから着手した方がよい。

委員長： 委員会の目的も勘案しながら進める必要があるが、今のご意見は非常に重要で、これはアンケートをしたから今のご意見が出たのだと思う。アンケートのご意見の中には、短期的に取り組むべきものもあると思う。中長期の方向性と短期的取組は裏表の関係にあるので、意見としてはいただきながら、事務局に投げながらまとめていきたい。

委員： 資料2が、これまでの委員会での意見をまとめたもので、これからアンケートの結果と照らし合わせていくのだと思う。直感的には、構想やビジョンは、一致しているのかなと感じている。立地として風光明媚であり、国際的な場所としての魅力があるという点は合致している。基本構想、ビジョンを大きく変える必要はないのでは、と感じている。ただ、細かい点になってくると、ハードが課題として挙がっているようだ。その一つが「桂」であり、バスであり、様々な機能が足りない、となっている。ビジョンとして強化する方向性の中に、それをどう取り込みながら作り込んでいくのかが、これからの委員会の課題である。最終的にレストランの改善、何かの誘致、医療施設の設置といった部分については、他で扱うということで、具体的な計画が見えてきたのでは、と思う。

ただやはり、交流人口となると、一部懸念される事項が住民の方々にも多いので、交流人口を増やしていこうというところをもう少し整理できれば、歩み寄れる部分も深くなってくると思う。

委員： 交流人口という話があった。アンケートでは「フリーマーケットを毎週やっていた」とあるが、これがなぜ終わってしまったか。また、以前、小田和正さんと呼んで、かなり大きなコンサートを行ったが、毎年継続するように聞いていたところ、一回で終わってしまった。さらに、湘南国際村フェスティバルに当初の頃から関わっているが、来場者が三分の一程度に減ってしまったように感じる。このあたりを、住民の方々はどのように感じているのか。

委員： 住民がセンターを利用するのは、一番はフェスティバルであることは間違いない。来ないのは、集まる機能がないから。住民がここに来て、何をするのか。ご意見にあったように、例えばアスレチックがあれば、60代、70代が多いので、毎日のようにでも来る人がいると思う。フェスティバルに関しては、非常に参加意識が高い。この村の面白いところは、自治会館が平日の午前、午後とも、同好会でほぼ埋まってしまう。20以上の同好会があり、活発に活動している。その中で、自治会の同好会の中にある混声合唱団がフェスティバルに出

場しており、集客にも貢献している。手芸、写真、書道なども、自分の作品を出展している。ただ、その他にお笑い芸人などもあるが、そのあたりは若干マンネリ化しているのではないか。自治会そのものとしては、従来どおり参加しており、住民もよく観に来ている。

委員長： 住民の方の意識は大きく変わっているわけではなく、こうした催し物に参加している。外から来る方が減っている、と受け止めている、ということか。

委員： そのように感じている。

委員長： そうなると、情報発信といったところが、これからの改善点になる。

委員： 当初は、駐車場がもっと近くにあったので、朝一番で確保しないと入れなかったくらい、すごかった。スタートした頃は、村の下の、今ではトンネルがある辺りまで車が並んでいた。仕方がないので、我々は秋谷の方を回ってきた。

こちらの自治会の方々の出展品は、絵画などプロ顔負けのものもあり、素晴らしい作品がある。来場者が少なくなっているのは、今は駐車場が奥にあり、車では不便なのでバスに乗らないといけない、という部分があるのでは。バスだと、今度は荷物が重くて大変なので、買い物客も減っているのでは。駐車場の確保は、ここに来るたびにいつも思う。

委員長： 詳しく施策と結びつける中で、分析が必要かもしれない。

委員： 情報発信という話があったが、低下している気がする。いつ、どこで、どのようなものが行われているか、なかなか伝わりづらい。この会場だけでなく、総研大、地球環境戦略研究機関といった業務施設の中でも同時にイベントがあり、そこにも参加したい。興味がある方は毎年行っているからよいが、新たな人がインターネットで検索しても「既に申し込みが終わっている」といったことがある。こうした情報発信についてもよろしく願いたい。

委員長： おそらく次回あたりで、具体案を含めての議論が始まると思うが、「ネガティブな部分の議論もしなければ、改善に結びつかない」というご意見だと思う。

委員： まずは、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。自治会の皆様のご尽力で集まったということで、お住いの皆様が日ごろのことの思っているらっしゃるのか、望まれているのかを垣間見ることができて、本当によかったと思う。今回出てきたご意見、ご要望の多くは、基礎自治体、より住民に近い市がやるべきことだったり、住民自治で解決できることも多く含まれていると思う。県がやるべきこと、できることというのは、この出てきた中でかなり限られているような印象も持った。

もう1点は、色々な方がいらっしゃり、多様性があると思った。例えば、高齢者が抜けた後に若い方に入居してもらいたい、バランスが取れた人口構成になってほしいというご意見がある一方で、高齢になっても、車に乗れなくなってもこの街にいたいので何とかしてほしい、という少し矛盾する意見も出ている。この緑の環境のままで、これ以上建物を増やしてほしくないという方もいらっしゃれば、大型スーパーやいろいろなものをもう少し作ってほしいという意見もある。当然だが、住んでいる住民の方も、様々な意見をお持ちな

のだな、ということが見えたと思う。

また、この地域に住んでいらっしゃる皆さんは非常に意識が高く、様々な知恵や力をお持ちであり、自助や互助で解決できる、課題解決力をお持ちだという印象を持った。

今回、こうしたアンケートを実施してみて、おそらく住民の皆様がお互いどうしているのか、可視化できたと思うので、この中で、自治会などでできること、すぐできること、あるいは「ここに働きかけたら解決する」というあたりを整理していただくのと同時に、我々のこの委員会、県がやるべきことは、目の前の課題解決というよりも中長期的という部分だと思うので、そのあたりを共有できるとよいと思う。どうしても、これはこうやったら解決できるのでは、とつい考えてしまうが、この委員会では少し先を見据えて、A地区だけでなくBC地区も含めてどういうビジョンを持ってやっていくか、というあたりを今後は時間をかけて議論していきたい。

委員 長： 事務局に確認したい。自治会の方で課題を整理して自助、互助的という話があったが、アンケート結果の公開について、個人のご意見を自治会の方といえども、まとめて整理して使うということは、できるのだろうか。情報管理に関して、自治会、住民から事前承認をもらっているのか。

事務局： アンケートの中に、「内容を外に出す」とまでは書いていないが、表紙の部分の一番下に「なお、アンケートの結果につきましては、検討委員会等の検討において貴重なご意見として活用させていただきます」としている。この幅の中で、どこまでできるのか、ということだと思う。ただ、匿名性のある情報の範囲で、個人が特定されない情報であって、「こうした意見がある」というものであれば、問題ないのではないかと考えている。

委員 長： 問題なければよいが、そこは十分に配慮していただいて、個人を絶対に特定できないという点と、検討委員会等の中で活用するという点で、「等」とはしているが、目的外使用ということが明確になってくると、問題になるかもしれないので、できれば活用する方向で、どうしたらよいか事務局でよく検討してほしい。

自助、互助というのは非常に大事な部分で、これからの地区のあり方はこうした姿だと思うが、そこに辿り着くためのアンケートという見方をすると、また価値が生まれる。できれば、次の委員会くらいでそのあたりの検討結果を紹介いただいて、住民との解決策の方向性について段階的に分けていただく。例えば、この委員会では、大きな方向性。それとは別に、このアンケートのキャッチボールの中で、具体的な課題解決に向けて自治会の方、市町の方、県の方が、どういうふうに関わっていくのか、整理できれば。

委員： 資料3のアンケート 13 ページに、通勤、通学のデータが掲載されている。このうち、通勤、通学の「いずれもされていない方」が6割以上いらっしゃる。これが非常に参考になると思う。日中、9時から17時の8時間、これだけの

方がこの湘南国際村にいることになる。この方々にどのように目を向けていくかが地域を活性化していく中で参考になるし、活発な地域づくりにつながると思う。この6割の方々が、普段どのような生活をされているのかという情報が、もしできればいただくと、参考になるのでは。イベントも大事だが、一時的に多くの人が集まるような活性化ではなく、常に村の中が活発に動いているような地域づくりをしていく必要があると思う。そのために、どのような施策に取り組んでいくのが重要。

委員：質問が2点と感想が2点お願いしたい。まず、アンケートに「朝市がよかった」とあるが、どのくらいの頻度で開催されているのか。また、めぐりの森について素晴らしいアイデアが出ているが、今、畑になっている所がある。この位置づけはどのようになっているか。また、「桂」について、あまり評判が良くないということで、飲食施設を充実してほしいという要望があるが、美味しいものを食べることができ、散歩できる場所があれば、人も集まってくるのではないと思う。最後に、スポーツジムについて、6割の方が日中、村にいるという中で、センターにスポーツジムができるのか分からないが、そういうものがあれば住民の方々がセンターを利用する機会も増えるのではないかと感じた。

委員：朝市は、毎週日曜日に開催されている。どうしても、時期によって量などは左右されると思う。ファミリーマートの辺りに「朝市」とノボリが立つので、住民以外でも、通行中の方の目にとまれば、上がってくることは可能。センターの入口で開催している。

事務局：めぐりの森の入口を入り、下った右側に畑がある。これは「森と畑の学校」という名称で行っているもの。BC地区は県有地であり、緑の再生と保全の場としているが、このうちの一部を使った県の公募事業として採択された事業である。農作業を行い、収穫物の販売もしている。

委員長：今回の活性化のターゲットではない、ということか。

事務局：BC地区には、畑で作業をしているグループのほか、植樹活動をしているグループなどがある。そういった方々が集まる協議の場でお話しし、ご意見をいただいている。

委員長：そうした方々と意見交換しながら進めている、ということよろしいか。

委員：色々なアイデアがあるが、中心的な場所なので、どうなるのか気になった。

事務局：めぐりの森で活動されている方々のご意見も伺いながら、進めていきたい。今の取組も大事なもののなので、共存しながら取り組むことになる。

委員：アンケートの結果を今後の検討につなげないといけない、と申し上げたが、2点ほど。

まず、これまで、中長期的に「交流人口をどのように増やしていくか」ということにウェットを置いて様々なアイデアを出してきた。一方で、住民の方々のアンケートを見ると、そういう問題とは別に、生活環境の向上をどう図って

いくか、当然と言えば当然だが、そこに重きが置かれている。生活環境の向上を軸に置いて、アンケート結果の分析を行い、そこに求められているものは何なのかを整理する必要がある。そう考えてアンケートを見ると、「魅力とは何か」という問1に対して、景観や住環境などが多く、正直、私は数値だけを見ると、国際交流拠点にはあまり関心がないのだろうな、と感じた。問2では、わざわざ「国際交流を掲げていますが」何に力を入れてほしいか、と聞いているのに、国際交流機能は16%。ということは、住民の方々は、健康や自然、スポーツなど、「自分たちの住環境をよくするために、こういう視点で改善してもらいたい」と望んでおられるのだと思う。そして、問4、問5でA地区、BC地区をどうしてほしいかという思いが、答えになっているのだと思う。A地区については、商業施設、飲食施設がよいと素直に書かれているのだと思う。BC地区については、めぐりの森の活用ということで、散策、散歩ができる、あるいは公園として週末や夕方には散歩できるようにしてほしい。センターについては、もっと機能を充実してもらわないと、利用頻度も低いし、あまり来たいとも思わないになってしまうので、どうやって住民の方々に魅力あるセンターを作っていくのか。

今までは、国際交流拠点としての役割に重点を置いていたと思うが、住民の方々のご意見としては、住民の方々にどうやってサービスを提供するかということに、8割くらい重点を置いていった方がよいのでは、とアンケートからは読み取れる。そうした整理を、住環境の向上として、施策の方向性をまとめていくとよい。そして、その施策の方向性は、切り口としてはA地区、BC地区、センターということで、そうした「面」や施設に対する施策もあれば、その中に、住環境なので商業、食、医療、福祉といった異なる軸がある。住民の方々の意見が、生活環境の向上という視点でこういう答えを出してきた、とこの委員会でまとめていけば、アンケートの結果も得られるし、施策にも展開できる。その後は、誰が、どのくらいの期間で、どのようにやっていくかという次のステップになっていく。それをこの委員会でやるのかどうかは、また別の話だと思う。

委員長： この資料2の生活環境の向上が浮き彫りになるように、このアンケートを活用していただきたい、というご意見だと思う。

委員： 生活環境の向上と交流人口の増加をもって活性化をしていくということでアンケートを実施した。課題そのものについては共通認識を持ったところだと思うが、住民の方々にとって、生活環境の向上をもって活性化を図る、という点には、時間軸の問題はあるが、異論はない。交流人口の増加をもって活性化をするということを、住民の方々が望んでいらっしゃるのかどうかという点がある。そこは、住民の方々の意見を取り入れて、委員会として整理をする必要があるのではないかと思う。

委員： 交流人口を増やすということについては、今日、参加して、また全体の説明を受けて、理解できた。それまでは「何のために交流人口を増やすのか？」という感じだった。私たちは、住環境を更によくしていただくということは望んでいるが、BC 地区を開発して、そこに人がたくさん集まってきて、ということは、形態は色々あると思うが、単に人が集まってくればよいのだ、という発想はない、と思っている。住民は「このアンケートの目的は何なのだろう」「一番は、自分たちの住環境、福祉や交通、商業が改善されるとよいな」という気持ちを持っている。ただ、交流について否定しているわけではない。そういうものが活発なのは、それはよい。問題意識はあり、カルチャー、サイエンスなど、何でも興味を持っている、関心のある方々が多いと思う。国際交流に関しても、海外に住んでいた方や米軍の方もいるので、否定はしないが、視線が「今の生活を」となる面が、住民の場合はどうしてもある。

委員長： 住んでおられる方を起点にして、皆さんが望んでいられるのは、長い期間この地域が発展していく、持続していくということだと受け取った。その中で、交流人口の増加や不動産の活用、センターの活用がどうかかわっていき、持続的な発展につながっていくかという絵がまだ描けていない。一つひとつが書いてあるが、それがつながっていくことで、初めて持続的な発展につながっていく。あるいは湘南国際村が生き生きと暮らせる場所になるという絵につなげていければ、住民の方々にもご理解いただけるのだと思う。この委員会の中で、次からその次にかけて、今まで出てきたご意見や案をつなげていながら、好循環のアップスパイラルが回っていくように、どう持っていくかという話にしていきたい。

やはり、生の声をいただいて、皆さんからも非常に有益なご意見をいただけたと思う。住環境の向上という部分の再整理も求められているという点があり、また「すぐやるべき」ということ、あるいは「個人、自治会、市町、県」といったレベルごとに施策や考え方を落とし込んでいくか。そこを考えながら、今後の委員会につなげていきたい。

議題3「今後のスケジュールについて」

委員長： 次回の10月の第7回検討委員会について、日程は決まっているか。

事務局： 場所も含めて未定である。日程調整も困難かもしれないので、委員長と相談の上、ある程度決め打ちにさせていただくかもしれない。

委員長： 皆さんお忙しいので、できるだけ早めにお願ひしたい。私より、皆さんと相談していただいて、決めていただく形でお願ひしたい。

以上をもって、本検討委員会の議案は終了し、委員長は閉会宣言を行った。